

6. 三重県の森林の特徴



三重県の森には
どんな特徴があるのでシカ？

三重県の面積のうち、
約3分の2が森林
なんだよ。



三重県の森林 地図編：地図から森をみてみよう！



北部の森林

東海地方ならではの木がみられる森

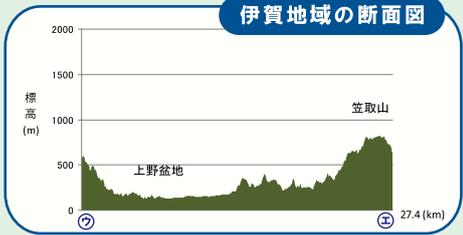
三重県は南北に長く海から山まで地形の変化が多いため、さまざまな種類の森があります。北勢・中勢地域ともに基本的に暖かく、そのような気候を好む木（シイ、カシ、タブノキなどの常緑樹）が多いのですが、鈴鹿山脈付近は若狭湾から吹き込む冬の季節風のため、県内でも雪の多い地域でもあり、寒い気候を好む木（ブナなどの落葉樹）の森がみられます。またこの地域は日本列島がくびれていて太平洋と日本海がとても近いいため日本海側だけに生えるタニウツギなどの木もみられるちょっと変わったところ。ふもとの平野には湿地が多く、ここではシデコブシなど、東海地方だけにしか生えていない木もみられます。



伊賀の森林

昔から人のくらしとつながってきた森

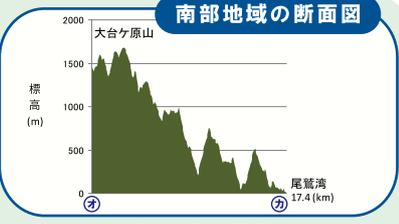
伊賀地域には、生活に用いる薪や炭などを得るために人が手入れをしてきた森が多く残ります。そのような人のくらしと密接なつながりのある森や山は里山と呼ばれます。古くから都として栄えた奈良に近いこともあり、伊賀地域には薪や炭によく用いられるアカマツやコナラ、クヌギなどを中心とした里山が多いのです。



南部の森林

暖かさと多量の雨が育てる森

南部（南勢・東紀州）は北部とは森の様子が異なります。奈良県との境界に壁のようにそびえる台高山脈は、夏には太平洋からの湿った空気を受けとめてこの地域に多くの雨を降らせ、冬には北からの冷たい季節風をさえぎり寒さをやわらげます。そのため標高の高い場所をのぞけば、暖かい気候を好む木（シイ、カシ、タブノキなど）が多く、うっそうとした森をつくります。また九州、四国、紀伊半島などにだけ共通して生えているグループの木（ズイナ、トガサワラなど）が多いことも大きな特徴です。その一方で、古くから林業が進み、家を建てる木や家具に使う木であるスギやヒノキの人工林の面積が大きい地域でもあります。



三重県の森林 データ編：グラフから森をみてみよう！

